

注) この RCT は日本東洋医学会 EBM 委員会がその質を保証したものではありません

## 10. 呼吸器系の疾患 (インフルエンザ、鼻炎を含む)

### 文献

木元博史, 黒木春郎. インフルエンザに対するリン酸オセルタミビルと麻黄湯の併用効果—成人例での西洋薬併用との効果比較—. 漢方医学 2005; 29: 166-9. 医中誌 Web ID: 2005292428

### 1. 目的

インフルエンザに対するリン酸オセルタミビルと麻黄湯の併用効果

### 2. 研究デザイン

準ランダム化比較試験 (quasi-RCT)

### 3. セッティング

2004 年 1 月から 3 月  
内科診療所 1 施設

### 4. 参加者

発症 48 時間以内 38 度以上の発熱のインフルエンザ迅速診断キット陽性成人患者 37 名

### 5. 介入

37 名のうち 19 名が調査対象者となり、除外となった 18 例の内訳は、体温 38 度以下 5 名、点滴 1 名、漢方薬のみ希望 5 名、西洋薬のみ希望 2 名、認知障害 1 名、調査に同意せず 1 名、普段漢方薬を服用 3 名である。

リン酸オセルタミビル 150mg ×2、5 日間、ツムラ麻黄湯 7.5g ×3、3 日間、西洋薬は抗ヒスタミン (塩酸シプロヘプタジン) を主とし、気管支拡張薬 (塩酸クレンブテロール)、去痰薬 (カルボシステイン) のいずれかを 3 日間投与。受診順に振り分け。

Arm 1: リン酸オセルタミビル + 麻黄湯 10 名

Arm 2: リン酸オセルタミビル + 西洋薬 9 名

### 6. 主なアウトカム評価項目

体温

食欲、疲労感、めまいふらつきの各症状の経過

### 7. 主な結果

全例インフルエンザ A 型であった。

体温は Arm 1 が Arm 2 より 12 時間早く解熱する傾向が認められた。

食欲不振、疲労感、めまいふらつきは Arm 1 と Arm 2 に有意差はないが、Arm 1 が Arm 2 に対し治療前に比べ早期に改善する傾向が認められた。

### 8. 結論

インフルエンザに対し、オセルタミビルと麻黄湯併用群が西洋薬併用群に比べ有熱期間が短く、患者の活動性が維持される傾向が見られる。

### 9. 漢方的考察

なし

### 10. 論文中の安全性評価

両群に有害事象は認められなかった。

### 11. Abstractor のコメント

グラフで見ると服薬 12 時間後発熱が麻黄湯併用群で 38 度弱に解熱し、オセルタミビル単独では 38.5 度強と有意に差があった。24 時間後は両群ともほぼ 37.5 度強となった。しかし他の症状は 2 群間で明確な差は見受けられなかった。成人ではオセルタミビル服薬後翌日には楽になったと表現する患者が多数いるが、一般に成人には解熱鎮痛薬としてアセトアミノフェンを頓服薬として処方することが多く、今回のような服薬後の自然経過での有熱状況を知り得たことは有意義であった。なお除外例は参加者に加える必要のない患者と考えられる。

### 12. Abstractor and date

藤澤道夫 2007.6.15, 2008.4.1, 2009.3.9, 2010.6.1, 2013.12.31